

高松市立一宮小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

生き生きと人と繋がりながら自分を高める児童の育成

【本校の課題】

- 男女とも、多くの学年のほとんどの項目で、体力テストの県・全国平均値を下回っている。
- 総合得点においても県・全国平均の値を下回っている。
- 体育の授業が楽しいと答えた子どもの割合が、全国平均を下回っている。

【現状】

本校の児童は外遊びが好きな児童が多く、始業前の時間や昼休みなどには、元気に運動場で遊ぶ姿が見られる。低学年の児童は、遊具を使った遊びや鬼ごっこを、中・高学年の児童は、ボールを使った遊び（ドッジボール）やケイドロを行っていることが多い。一方で、運動が苦手な児童は、あまり外遊びをしない。また、遊具の中でも鉄棒や雲底などを使って遊ぶ児童も少ない。

体育の授業においては、各学年団で内容をそろえて行うようにしている。また、クラスマッチ前になると、授業中だけでなく、休み時間を使って学級で練習する姿が見られる。

【取組み】

ドッジボールコートづくり

全校生がドッジボールで遊べるよう、体育委員が1～6年生のドッジボールコート（6面）をかく。学年に応じて、コートの広さも変えるなど工夫している。各学年1面なので、他の学級の友だちとも遊べる。

なわとび検定表の活用

毎年12月から、なわとび検定表を実施することで、友だちと競い合ったり、昨年度の自分と比較して伸びを実感したりできるようにする。



さまざまなクラスマッチ種目

クラスマッチは、1学期に運動会・水泳、2学期に鉄棒、3学期に縄跳び（大縄）・サッカーを行っている。2学期に鉄棒クラスマッチを行うことで、普段は遊ばない鉄棒に集まり、技の練習をする児童が増えた。

水泳・陸上クラブ&サッカーコート開放

5・6年生全員対象に、放課後水泳や陸上練習を行う。記録会に向けてだけでなく、一人ひとりの体力向上を目標に行っている。また、3学期は3～6年生対象に放課後サッカーコートを開放し、冬もしっかりと体を動かせるようにする。

【目標】

- 体育の授業が好きと答える児童の割合を、H32年度までに80%にする。
- 体育の準備体操の中に、劣っている体力づくりの種目を毎時間取り入れて、体力向上を図る。
- 友だちと運動場で元気に遊ぶことで、運動の楽しさやふれ合う喜びを実感できる児童を育成する。